

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス はるの樹			
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日		～	令和7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数)	19名
○従業者評価実施期間	令和7年3月1日		～	令和7年3月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている。	職員全員が、こどもや家族から、相談をしやすい関係の構築を目指すことを意識している。相談する機会を、連絡帳や送迎時の申し送り時だけではなく、定期的な面談、思ったときに相談できるように、電話やSNS等を利用し、相談を受ける体制を幅広く取っている。	評価は得られているが、周知・説明が行き届いていない可能性も考慮し、今後も繰り返し、遠慮なく相談できる関係の構築をこれからも行っていく。
2	長期休み期間を楽しく過ごせるよう、外出や行事イベントの計画に時間を掛けて行っている。	イベントを通じて、社会のルールや、協調性を学び、また、様々な体験を通じて、好奇心や興味の幅を広げる機会を提供している。	自粛期間中にできなかったことを、充実することにより生活自立に向けたプログラムを提供する。公共施設、公共交通機関の積極的活用など。
3	スケジュール通りの活動を行い、毎日の活動の中に、療育・課題、レクリエーション、自由時間を設け、自分のやりたいこと、興味のあること、得意なことを発見する機会を提供している。また、自由時間には、余暇の過ごし方を考える機会を提供し、自分で考え、選択できる機会を与えている。	場面の切り替わりの機会を増やし、集団での活動が、自然に身につくように工夫。職員を多く配置し、トラブルの回避、トラブルの対応を心掛けている。また、トラブルの際には、振り返りがすぐに行える体制を心がけている。	時間に合わせた活動を継続し、場面の切り替えがスムーズに行えるよう、目標の設定やルールを充実させる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が少ない。	児童館や地域の他のこどもが遊んでいるような公園へ出掛けるイベントを用意はしているが、交流のきっかけを与える場面がまだ少ない。また、交流を望まない児童(知り合いに会いたくない等)がいるため、地域の他のこどもとの交流を主とした計画がこれまで立てられていない。	交流を望まない児童が、気にすることなく参加できる計画を考える。隣町、市内での交流の機会、他事業所同士での交流機会などを増やす。
2	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けてはいるが、一部の保護者のみの参加となっている。また、きょうだい向けのイベントの開催等がなく、きょうだい同士の交流の機会が少ない。	自粛期間終了後より、保護者同士の交流の場として茶話会を開催し、交流の機会を設けているが、告知の不足以外に、開催日時、保護者のみでの参加などの制約により、交流に参加できていない保護者も存在するため、その機会を与え切れていない。	交流の場に保護者が参加しやすい方法を模索し、また、告知や、お誘いの声掛けを強化する。 きょうだい向けのイベントとしては、茶話会とは別に、自粛前に行っていた夏祭り、秋祭り等の計画を考える。
3	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、発生を想定した訓練も実施されているが、保護者への周知・説明が不足している。非常災害の訓練実施についても同様。	マニュアルの整備はされており、保護者向けの配布物による周知や、説明を実施しているが、保護者への周知や説明の回数、避難訓練等の実施の報告などが不足している。	マニュアルに関しては、保護者向けに用意しているファイルを活用し、認知度を高める。また、避難訓練の様子を定期的に発行する広報誌にて報告する。